

市民の皆さんへ
本基本計画(素案)は様々なイベントや市民対話等で市民の皆さんからご意見をいただき、策定しました。たくさんのご意見やアイデアを頂戴し、誠にありがとうございました。

ビジョン - 基本理念 -

ひらいて むすんで 知恵うむ “ふみくら”

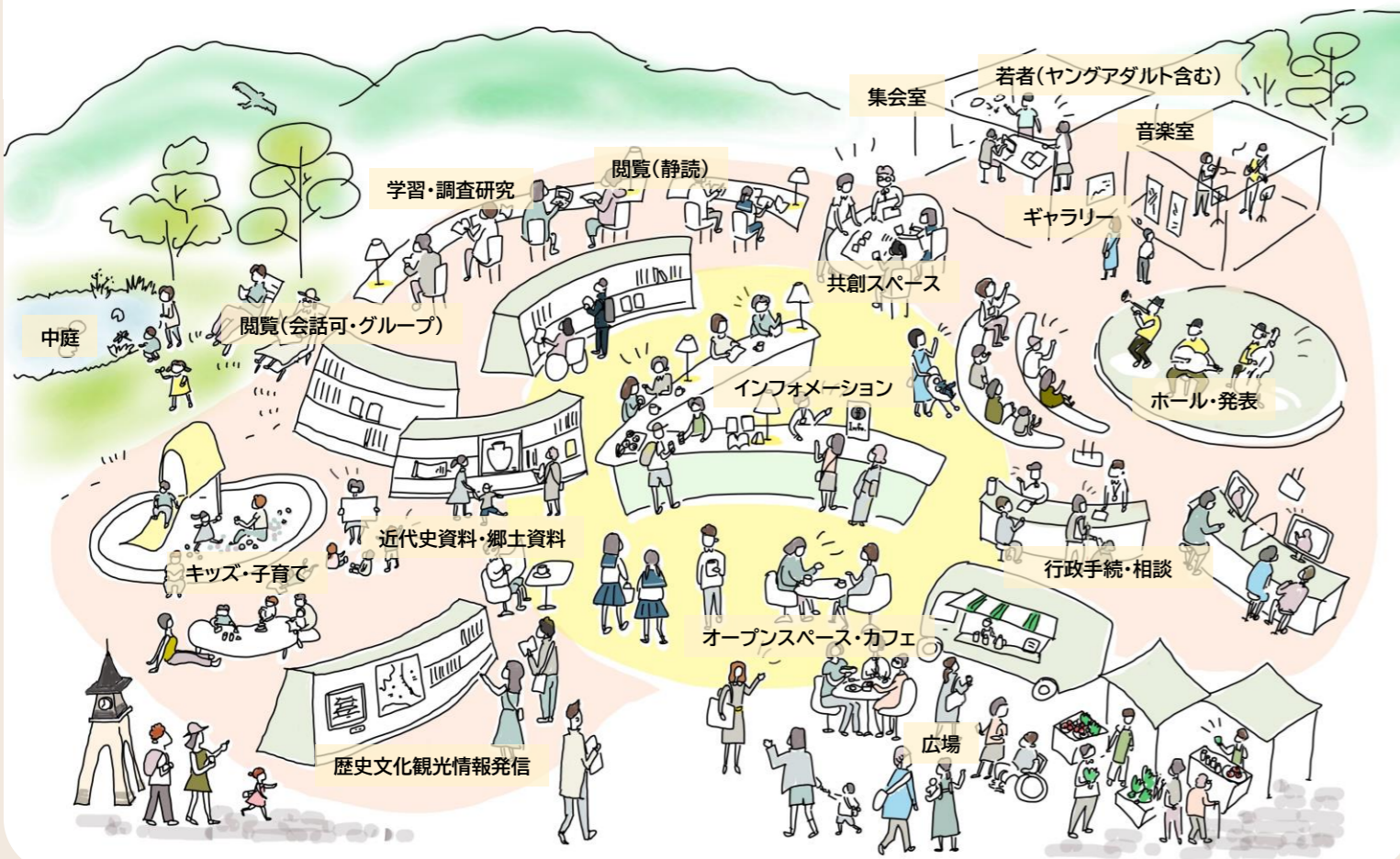
鎌倉の拠点である市庁舎現在地は、手続や相談といった行政サービス機能や情報発信機能、鎌倉駅周辺にある公共施設(鎌倉中央図書館、生涯学習センター、市民活動(NPO)センター)を複合化し、これに民間機能も加わることで、鎌倉の拠点にふさわしい新たな価値を創出します。

市庁舎現在地は、誰もが気軽に利用でき、つどい、まなび、つながる、魅力あふれる居場所として新しく生まれ変わります。

「ふみくら」(文庫)は、資料を整理して保管する建物を意味する言葉で、その起源は古く、奈良時代にさかのぼります。鎌倉時代には、武家文化における幕府等の資料を保管したものや御家人などの屋敷にも「ふみくら」が設けられており、書写などの活動も行われた場であったそうです。

歴史・文化をつむぐ、鎌倉の知識の蓄積の場、まちとつながり、人と情報の交流が結節し、学びや共創の場として生まれかわるこの拠点のビジョンを、歴史・文化を次の世代に引き継ぐ場として「ふみくら」と名付けました。

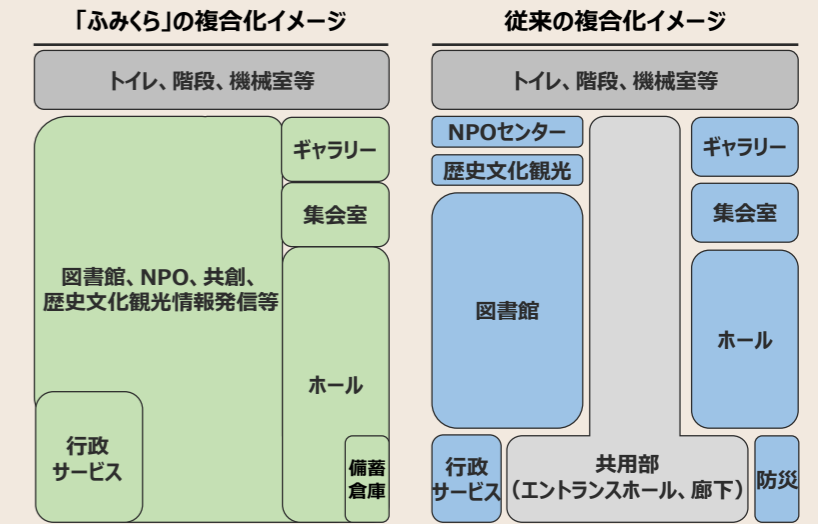
『ふみくら』の機能や活動のイメージ



※配置や規模を表現したものではなくイメージイラストです

導入する機能及び複合化の方針(第1章・第2章)

- 基本構想では、導入する機能として「行政サービス機能」「中央図書館機能」「ホール・ギャラリー(生涯学習)機能」「防災機能」を定めました。
- 基本計画では、上記の他に「市民活動の場」「歴史・文化・観光情報の発信」「共創の場」「民間機能」を導入機能として定めます。
- また、様々な公共機能を集約し融合させることで、複合的なサービスを提供します。さらには、公共機能に加えて、同じ価値観に基づく民間機能と複合化することで、市と市民と民間企業が、共生社会の実現につながる『もの』や『こと』を共に創造することを実現します。
- なお、本施設は「市役所が移転したら跡地はどうになってしまうのか」「行政手続や相談窓口はどうなるのか」といった市民の皆さんの不安の声に応えるため、行政機能を充実させ、災害時には、施設全体での災害対応を可能とします。このことから、本施設を「鎌倉庁舎」として位置づけます。



提供サービス(第2章)

基本理念に沿って、基本構想で示した「①知識をひらく」、「②多様な交流をむすぶ」、「③知恵をうむ」に加え、これら三つの役割を果たすための基盤として「④市民の日常生活を支える」という役割を果たします。

【知識をひらく】
正確で多様な知識の収集とネットワーク化に取り組み、広く市民に提供します

知識の収集

現中央図書館が保管する書籍や歴史文化資料の継承、新たな資料の収集等

知識のネットワーク化

資料のネットワーク化、多様な地域情報のネットワーク化等

知識の提供

資料の提供と資料の使い方の伝達・支援、情報を収集する環境の提供等

【多様な交流をむすぶ】
活動の様子と成果を公開し交流を生むことで多様な市民・団体を結びつけます

活動の場の提供

日常的な憩い・活動の場の提供、市民活動等を行える場と設備の提供等

活動の公開

市民活動等の一覧化と展示等

交流の促進

活動する市民・団体・大学等が交流するイベントの開催等

【知恵をうむ】
継続的に『もの』と『こと』を創造し、そこで生まれる知恵を蓄積し共有します

もの・こと・ひとづくり

産官学民とのネットワークづくり・コミュニケーション、プロジェクトの立ち上げ支援等

知恵の蓄積と共有

プロジェクトの記録とアーカイブ、プロジェクトの結果の公開・展示等

【日常生活を支える】
様々な主体と連携して市民の日常生活を支えます/全ての活動の基盤となる情報リテラシーの向上を支援します

日常生活への寄り添い

日常生活に必要な情報や資料の提供、行政サービス(手続)とよろず相談等

防災

備蓄倉庫や資機材等の管理、防災情報提供体制の充実等

情報リテラシーの向上支援

情報リテラシーに関する研修や講座の開催、端末の貸し出し等

鎌倉市 市庁舎現在地利活用 基本計画(素案)

行政サービスの方針(第2章)

現在の市役所1階で対応している主な手続き及び相談について、オンラインによるサービスも活用しながら、本施設では「できない手続きはない」状態を目指します。サービスの形態は右記の【A】～【B】の3つを想定します。

生活のご相談ですね？
【A】窓口スペースをご案内します

〇〇〇の相談でしたら
【B】個室ブースで新庁舎の窓口にお繋ぎいたします

コンシェルジュ

〇〇〇の手続きは
【C】手続きスペースの端末でできます
操作方法はスタッフがサポートいたします

【C】【手続きスペース】
(10席×7.2㎡=72㎡)
オンライン



【A】【窓口スペース】
(5席×12㎡=60㎡)
対面相談(総合相談窓口)



【B】【個室ブース】
(5席×18㎡=90㎡)
オンラインで新庁舎の窓口と接続



【表】本施設で扱う手続・相談の例

分野	現在の市役所1階で対応している主な「手続・相談」例
戸籍・住民票	証明書発行、転出届など
税	市税関係諸証明等の交付、納付に関する相談など
子育て	児童手当、子育て相談など
福祉	高齢者福祉、障害福祉に関する相談など
環境	生ごみ処理機購入費助成、転入時のごみの分け方・出し方案内など
地域	地域活動支援、自治会・町内会の相談など
総合相談	くらしと福祉の相談窓口のような生活に関わる相談など

- 《ワンストップ》
- コンシェルジュが、来庁された方のお話をお伺いし、意向に沿った手続・相談を提供できるように体制を整えます。
- 《社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)》
- オンラインに不慣れな方や初めての方にも、サポートスタッフが寄り添い、安心して手続・相談を行えるようにします。
- 《フレキシブルな対応》
- 上記の【A】～【C】の席数につきましては、混雑状況を鑑みながら、席数の増減を柔軟に対応できるようにすることで、お待たせすることのないよう努めていきます。

民間機能(第2章)

本施設の4つの役割と相乗効果が図れる民間機能を誘導します。機能の選定は基本計画策定後となりますが、以下に例を示します。

役割	民間機能の例
① 知識をひらく	ミュージアム、研究機関(例えば、リビングラボのような市民と企業等が社会課題解決のサービスや商品を生み出すラボ、企業や大学のサテライトラボ) など
② 多様な交流をむすぶ	イベントスペース、屋内型子ども施設、地域の食材を使用した飲食店舗、体験型宿泊施設 など
③ 知恵をうむ	シェアオフィス、オープンイノベーション施設 など
④ 市民の日常生活を支える	物販店舗(災害時の物資提供について協力)、サービス系店舗(フィットネス、健康増進施設)、情報通信系サービス店舗、PC・スマホ教室 など

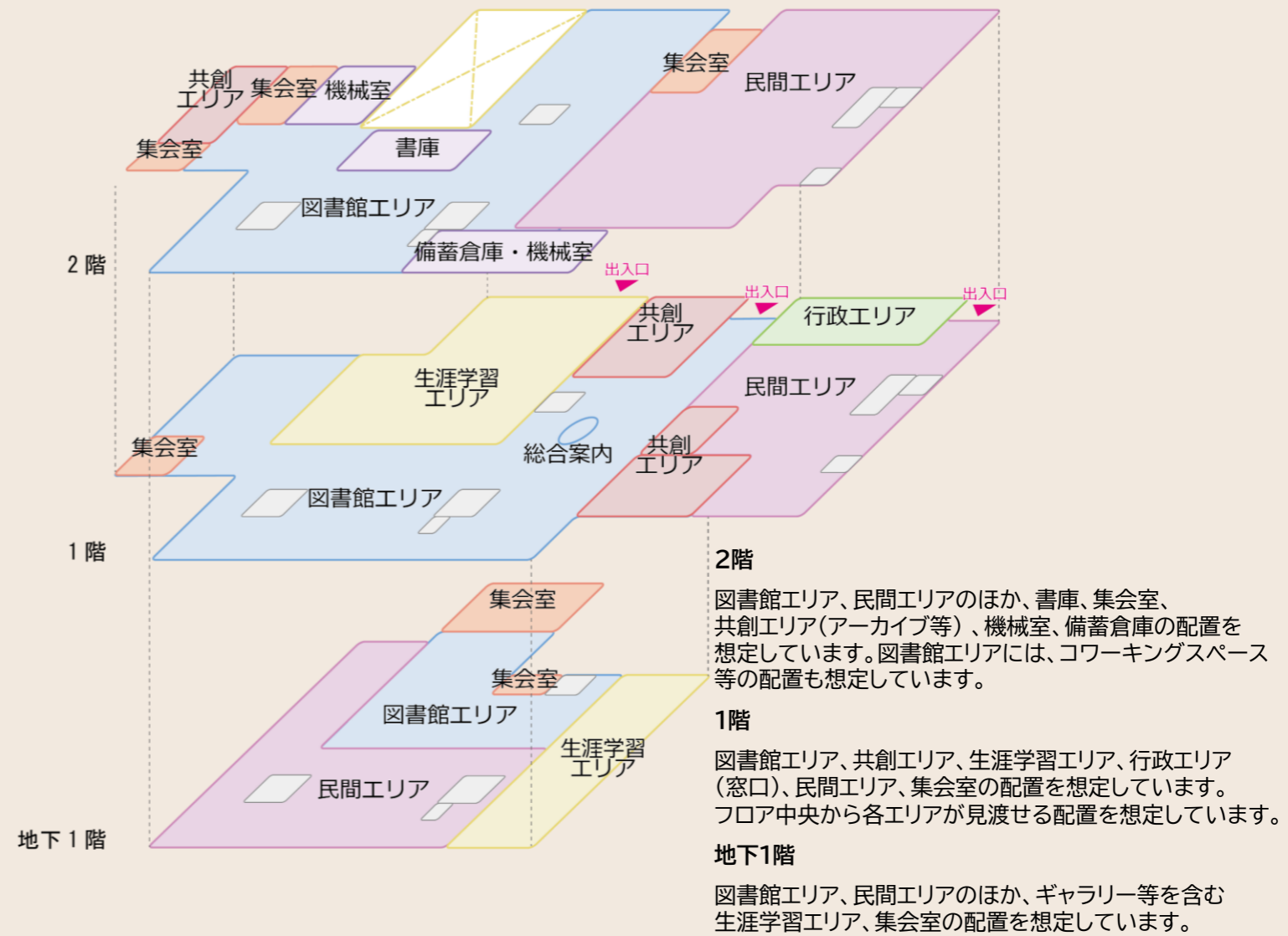
既存施設の利用可能性(第3章)

床の積載荷重や耐震性、耐久性の観点から見ると、本施設において、既存施設の利用は困難であると考えられます。また、新築の場合は、既存施設を活用する場合よりも、工事費が減少する見込みです。そのため、新築に優位性があると考えますが、既存施設を活用する民間提案の可能性は残すこととします。

モデルプラン(第4章)

※現時点でのイメージであり、基本設計において具現化します。

施設規模 約13,160㎡

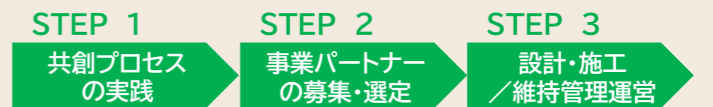


整備費及び事業手法(第5章)

整備費は、官民連携手法での整備を前提に、約139.6億円と想定されます。事業手法は、PFI+貸付方式を最有力候補、借地+リース方式を次の候補としつつ、最適な事業手法を引き続き検討します。なお、民間事業者17社にヒアリング調査を実施した結果、多くの事業者が本事業に関心を持っていることが確認されました。

今後の進め方(第6章)

市民や民間事業者との共創・対話(共創プロセスの実践)を通じて、提供サービスを具体化します。その上で、事業パートナーとなる民間事業者を募集・選定して、整備・運営を行います。



もっと詳しく知りたい方は

本編では、より詳しく記載しております。また、ホームページもご覧ください。
<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/chousya-seibi/index.html>

